Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-05-31

年報の発行にあたって

南, 正巳

(Citation)
海事資料館年報,4

(Issue Date)
1976

(Resource Type)
other

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005847

年報の発行にあたって

海事資料館長　南　正　巳

ここに本学海事資料館の関係者，とくに顧問・専門員の方々の絶大なご協力を受け，所蔵の海路図を中心にした記事を特集し，昭和51年年報を発行することとなった。

明治維新を幕開けとして，西洋の科学や技術が急速にわが国に取り入れられ，驚異的短日月の間に消化され結実して，今日の日本のそれを支えていることは衆知のことである。しかし短期間の間に消化し血肉をつけることのできた基本には，永年にわたる鎖国の続いたわが国において，すでにそれぞれの分野にあって国民が独特の文化により，異質のものを吸収しうる科学的素養を持っていたことは案外指摘されることが少ない。

船や航海に関するものもその一つであり，本報の海路図も洋式の船や海についての技術の入る以前わが国の先人によって作られたものである。この図のもつ意義を深く味うことは誠に重要なことと思われる。

今から思えば小さな木造帆船で，風や波の自然条件の厳しさに耐え，安全に人や物を目的地に運ぶ輸送目的のため，この海路図は生れたものである。1枚の海路図ができるまでに，どれだけの人と時間を要したものであろうか。幾世代にもわたる先人の経験や調査研究の積み重ね，あるいはまた悲惨な犠牲の上に成ったものであろう。当時の輸送需要の生れる人々の政治や経済的な営み，人間と自然の結び付き，航海者の自然との融和や闘い，人間の哀歓など，専門的な研究解説を読む楽しさは無限である。

それのみならず独り海路図の前に立って，いろいろ想像することもまた楽しい。これらの楽しさがさらに新しい研究の道を提供してくれる筈であり，新しい科学や技術へのヒントを与えることを期待している。